

ニュージーランド英語におけるマオリ語 (V)

横瀬 弘幸*

Aspects of the Maori Language in New Zealand English (V)

YOKOSE Hiroyuki*

Abstract

In daily conversation in New Zealand, the Maori Language comprise only five percent. In fact, however they use and speak lots of Maori Language, words and phrases, expressions, everywhere.

This paper examines the structure of the simple verbal sentences, no te and its various meanings, reduplication, the biposed particle anoo, numerals, taua and teetahi, the locatives koo, konei, kooa, koraa, reira, agreement of qualifying bases and manner particles with passives and derived nouns, etc. numerals and the structure of the Maori phrase.

抄 録

ニュージーランドにおけるマオリ語の存在は確実に生活の中にある。授業に学校でも取り入れられているところもある。言葉に限らず歴史にも触れ、マオリに対する姿勢は行きとどいていく。国としてさすがである。言葉の使用範囲は5パーセントといわれているが、前回に続きマオリ語が生活の中に受け入れられ、借用されているか文法的見地から検証してみる。

キーワード：単動詞、主語、述語、感嘆詞、同格、多数の構成、反復、数詞、派生語、マオリ句の構文など

1. 単動詞の文

マオリ語は文法的構成としてフレーズの重要な上に置かれる。今まで見てきたようにマオリの発話はそれぞれフレーズの配合であり、それは語彙の情報を含む中心の核から成り立っている。文法的情報に加えられた表現

法しかり、文法的情報は迂言法に加えられ、主に二種類ある。一に核を意味する定義と、二に文章の中で他のフレーズに対して、影響を及ぼすものがある。情報のまず例として違った品詞 *te, nga, he, a* を全て発話で出てくるフレーズの核の意味についても考えてみる。

* 情報コミュニケーション学部情報メディア学科、Tsukuba Gakuin University

文中のフレーズの機能は最初の不変化詞によって示されるか、文章中の位置によるかあるいは両方に示されるかどちらかである。文中の *ka tahia te kaainga e Rupe* は家が流されたことを意味し、代わりのフレーズの機能は最初の品詞 *e* によって示される。

ko te orange otana ahi i whiua e ia ki te kaikoomako は火の残りが *kaikoomako tree* に人により投げ入れられた意味を表す。

(A) 概論

それぞれのフレーズの機能は最初の品詞で示されるが、*ko te orange* は二回文の中心として印されている。次に文章の最初に置かれる。この理由は *ko* が全く意味を変えずに除かれているからである。フレーズは文章内において四つの機能の役割を果す。主語、述語、注釈、間投詞、句となり、そのフレーズは組み合わせによりこれらの機能の一つの役割を果たしてその文の構成になっている。文の構成をする4つのタイプは次のように分類される。

(B) 述語

動詞句の述語は常に動詞から派生した句である。必ずしも述語は文の始めに生じるわけではない。次の例は述語が最も一般的な字体で表示されている。

Ka haere a Maui ki te hii ika.
マウイが魚釣りにいった。

He aha ra I mau eke ai te ika ki tana matau.
何故その魚は彼の釣り針にかかってしまったのか？

(C) 主語

単文の主語は前置詞と始めない名詞相当語句である。主語となる句はきわだたないと言われる。主語が焦点が合っている時、決定的

なもの *ko* で始める。次の文は主語が大胆にも印されている。

Kaatahi ka karanga mai te whaanau a Taane.

その時 *Taane* の家族は大声で叫んだ。

Ka hoki anoo a Rata ki te tarai i tana waka.

Rata はカヌーに乗って斧をとりにもどった。

Ka moe a Wahie-roa i a Kura.

Wahie-roa は *Kura* と結婚した。

Ka maminga raatou i te raakau a Rata.

彼らは *Rata* の木でじゃました。

Kua haere te tamaiti ki te kauka.

その子供は入浴に行った。

(D) 焦点になる主語

強調は最初移動することにより文の主語に取って代わり、品詞 *ko* を焦点とする。主語は文の中で焦点が合わされる。*ko Mahuika i ngaro tonu iho a Mahuika.* は *Mahuika* はすぐに破壊された。この場合、たいていの語順では *i ngaro tonu iho a Mahuika* となる。次の例文の主語は目立ったタイプである。

Ko nga raakau anake i tupu tonu.

その木だけが生長を続けた。

Ka mea a Rata, ko koutou e maminga nei i taku raakau.

Rata は私の樹木で邪魔しているというのはあなたの方よ。

Ko Rata anake i eke atu ti uta.

Rata は一人海岸に行った。

Ko Wahieroa kua moe i a Kura.

Wahieroa は Kura と結婚している。

Ko Aotea i tukua atu ki a Rongorongo.

Aotea は Rongorongo に与えられた。

(E) 論評

論評は常に文章の中では頭文字は無い。
ki, i, hei, e, ,na, no, ma, mo, は前置詞と始める。次の例は際立った、珍しいタイプである。

Ka haere a maui **ki te hii ika**.

Maui は魚釣りに行った。

Kaaore te ika i mau **i tana matau**.

その魚は彼の針にかからなかった。

Ka moe a Wahiero **i a Kura**.

Wahieroa は Kura と結婚した。

He pukapuka **naaku** teenei.

これは私の本です。

Ka koorerotia **e te wahine ra** te aahua o te tangata ra.

その婦人は男の容姿を話した。

接続法の句は前置詞 a, o, me, で始める。それは必ず構成物の役割をなし、決して全てではない。文章の中で、kei whea te waka me te hoe? (カヌーとパドルはどこにあるの?) それは、話題の中心から成り立ち、話題構成は te waka me te hoe である。この二つのフレーズは te waka と te hoe との間の可能な区切りは事実認められなく、事実によって普通のスピーチにも示されている。a, o, of, me でそれぞれの句の始めは文構成の一部になる。

Ka koorero a Pita ki nga mema o te komiti

ピーターは委員の一人に話しかけた。

Koia na te mate o te kuuware, kaaore e moohio he aha te aha.

無知であることが問題です、あなたは何がなんだか分かってない。

Tapahia nga peka me nga rau o te raakau.

その木の葉、枝を全て切り取りなさい。

(F) 感嘆詞

一つの文を構成する感嘆詞は as kaatahi anoo (さしあたり)、as e hoa! (友よ)! のように感嘆詞として単なる基となるものや、inana! (見て)! のような句から成り立っている。

Kaatahi te rangi aataahua!

なんて天気の良い日だろう!

Naa, ka hangaa e Whakaue he pourewa moona.

Whakaue が自分でステージを作ったですよ。

Teena, tirohia te aahua o teenei whare!

それではこの家の概観をご覧ください!

(G) 同格

同じ不変化詞と始める二つの構成は同格である。すなわち、それらは同じ機能の役目を果たす。Ka rapu a Maui i tana whaea, i a Taranga. (Maui は母の Taranga をさがした) この文は同格として二つの注釈ができる。次の文は同格を三つ持つ例である。Ko te poo nui, ko te poo roa, ko te poo whakaau te moe. (最高の夜、長い夜、深い眠りの夜)

Kei te moohio au ki to matua, ki a Whairiri.

私はあなたのお父さんの Whairiri を知っ

ている。

Ko te uunga mai o Tainui, o te waka i uu tuatahi mai.

Tainui に、最初カヌーが上陸した。

Ka kitea a Maau i ki te ngaro, ki nga manu e karamui ana i runga i a ia.

(Maau は自分の上を群れをなしている鳥に見つけられた)

Ao ake anoo te raa kua whakatika a Taranga, kua ngaro whakarere i te whare.

(その日 Taranga が起きるとすぐ家から出て行ってしまった)

I haehae rawa iho raatou ki roto i te puku nui o te taniwha. E noho-a-tinana tonu ana te wahine, te tamariki, te taane. Ko eetahi anoo kua motu i te pane, i nga ringa, i nga wae raanei, no te komenga pea o nga ngutu, no te whakatanukutanga o te korokoro. 彼らはその怪物の腹の真ん中を切り裂いた。男、女、そしてこどもたちは目撃した。ある者は頭を切り裂き、ある者は足や腕半分に切り、喉を鳴らしながらむしゃむしゃとむさぼり食っていた。

(H) 多数の構成

単文は同格の無い同じ種類の構成上にあると思われる。文中において、ka topea te raakau e te tangata ki te toki (木は斧で男によって切り倒された) この場合、この木に二つのコメントが言える。e te tangata は代わりを成す句、ki te toki は手段としての句を成す。In kawea atu te mea na ki te tangata i te whare ra (家の中にいるその男にそのものを持っていきなさい)

又ここにも二つのコメントが言える。ki te tangata は方向の句であり、i te wahare は所

在を示す句である。文中で ka rongu teetahi wahine no runga I te rangi ki te toa o Taawhaki (ある一人の女性が空に上り、Taawhaki の勇敢さを耳にした)

二つのフレーズから成り立っていて又二つのコメントが言える。それらは、no runga i te rangi and ki te toa o Taawhaki. である。後者は一つの構成がある。というのは o は形容詞句を示し、決して全体の構成にはかからない。前者は唯一の構成である。

2. No te とその異なった意味

(A) when の意味を成す No te

次の参照はある行動が起きる過去時点を示すものである。

No te ahiahi ka haere a Whakatau
Whakatau は夕方出かけた。

No te tau kotahi mano, e iwa rau maa whitu, teenei haerenga ooku.
この私の旅は19007年でした。

No teetahi poo kei te purupuru a Maau i te matapihi, i te whatitoka o too raatou whare.
ある晩 Maau は家の窓やドアをふさいだ。

Kaatahi ia ka aata titiro i te takahanga waewa- no te poo noa atu teenei mahinga, ehara i te ata nei.

それから彼は歩幅を注意深く見た。これは今朝でなく前の晩に行われたことであつた。

(B) 名詞をとる No te

擬似の動詞構造は周囲の no te で、stative か universal かどちらかに由来した名詞に形

成される。この構成は常に文の始で、中心とされる。次の例は行動や状態が動詞の名詞となり、それにより言及された時過去の時点である。

No te horonga o Mokoia ka riro nga wheua o tuuhourangi i a Ngaapuhi.
Tuuhourangi の骨は Mokoia が捕まった時 Naapuhi により持ち去られた。

No te taenga ki te raumati, ka mahana te kiri o te tangata.
夏が来ると人々は暖かく感じ始めた。

No te matenga o Hawe-pootiki, ka pokaia e Turi te manawa.
Hawe-pootiki が亡くなると Turi は彼の心臓を取り出した。

No te haerenga ka paakia te ringaringa o Haakawau ki te paepae o te whare.
彼は Haakawau を後にした時家の出口のところで手を叩いた。

No te mutunga o te tangihanga, ka kiia atu e Rehua, Tahuna he ahi.
挨拶が行われたとき Rehua は点火と言った。

(C) Because の意味としての No te

No te Katanga a Tiiwaiwaka i a Maui i kuutia ai e Hine-nui-te-poo, aa, mate ana.
彼が Hine-nui-te-poo にぶつかり亡くなったのを見て Fantail は Maui を見て笑った訳だった。

No te tangi ka maatau ai a Rehua ko toona teina teenei.
Rehua は彼の後輩であることを嘆いた。

3. Reduplication (反復)

反復には三種類ある。as wera, werawera のような完全な反復と、pango papango のような部分的反復と、tangata, taangata のような固定されない反復がある。たいてい、基を成す完全な反復は動作や状況を示し、時々、または状態が続いて発生する。例を挙げてみる。

mate	死ぬため	matemate	多数死ぬ
paki	ポンと叩く	pakipaki	時折叩く
kimo	瞬き	kimokimo	時折瞬きする

時々 stative の完全な反復はその強さを小さくする。

wera	熱い	werawera	暖かい
mate	病気	matemate	病弱

(A) 部分的反復

ある場合部分的反復は唯一最終動作を示す。

kimo	ウインク	kikimo	目を閉じる
paki	ポンと叩く	papaki	平手打ちをし て、手を叩く

他の場合、部分的な反復は強烈に減少されたことを示している。

maaroo	難しい、厳しい
maaroooro	かなり難しい、厳しい
pango	黒い
papango	かなり黒い
whero	赤い
whewhero	やや赤い

2, 3 の場合核となる位置を限定する形容詞は部分的には反復され、最初の核となる基本

を示すのは複数形をとる。

he raakau nunui 大きな木々
 he raakau roroa 高い木々
 he raakau papai よい木々

(B) 固定された反復

次の母音を含む5つの語は大多数を示すため二重になる。

te tangata	その男	nga taangata	
			その男たち
te wahine	その婦人	nga waahine	
			その婦人たち
te tupuna	先祖	nga tuupuna	
			先祖たち
te matua	親	nga maatua	両親
te tuahine	姉、妹	nga tuaahine	姉妹

次に例文を挙げてみる。

Hoomai te pakipaki.
 彼に援助をしてくれ!

E whiowhio haere ana te tangata.
 男は口笛を吹きながら去って行く。

No hea to mana? No ooku tuupuna.
 あなたの mana はどこからくるの? 先祖からよ。

Kei hea nga maatua o eenei tamariki?
 これらの子供たちの両親はどこにいるの?

Ko ta raaua nei mahi taakaro he whaka-tangitangi puu toorino.
 彼らの趣味はフルートを吹くことです。

I nga waa e huihui ana nga hapuu o Roto-

rua ki Mokoia ka kitea a Hinemoa i waenganui o toona iwi.

Rotorua の部族たちが Mokoia Hinemoa に集まっている間は人々の真ん中に見られた。

Ko te amuamu te tino rongoa a te Paakehaa hei patu i nga ture e kinongia e raatou. Grumbling は嫌われている法律を阻止するヨーロッパ人の最良の手当である。

E hikohiko ana te uira runga i nga pae maunga.
 光は山際に照らされている。

Kua pau te kai a nga hoa, katikati tonu ana a Tama-te-kapua.
 友達は食事を終わったが Tama-te kapua は少しずつ食べ続けた。

Ko wai teenaa e maatakitaki mai ana ki a maatou?
 私たちを見ているのはどなた?

I te ahiahi ka tiimata te hokihoki o nga taangata ki oo raatou whare.
 夕方人々は自宅に帰り始めた。

4. 二重におかれた anoo の不変化

前に置かれた不変化詞としての anoo は動詞として機能する語と名詞相当語句両方に生ずるようである。方向性の不変化詞と位置を示す不変化詞の後に前に置かれた不変化詞が生ずると、それらはフレーズの中で起きる。Anoo は方法の不変化詞とは両立できない。

Anoo の基本的意味は '再び' である。例えば、in hoki mai anoo は、また戻ってきなさいの意味となる。しかし、強意語としての単なる機能である。Koia anoo は、それが問題だ。

ko koe anoo はあなた、あなた自身、e tika ana anoo はそのとうりの意味である。

Kaatahi anoo au ka mai.

私は丁度着きました。来たのははじめてだ。

Kaahore anoo ia kia tae mai.

彼はまだ着いてない。

No konei koe? Aae, no konei anoo au.

貴方はこちらの出身？ええ、そうです。

Ka tahuna te whare ki te ahi, me nga taan-gata anoo i roto.

その家は燃えた、しかも中には人々がいた。

Me koe na anoo toona aahua.

彼は正に貴方そっくりです。

He tikanga anoo no te taane, he tikanga anoo no te wahine.

男には男の道があり、女に女の道がある。

Kaahore he waka mooku? He waka anoo.

私のカヌーは無いの？カヌーは用意しています。

前に置かれた不変化詞としての anoo は常に初めに句を作る。そして文になる。それは aanoo と発音する者もある。前に置かれる anoo の基本的な意味は英語で言う as if や like である。それは、me と共同して使われるか、同じフレーズの中か、あるいは次のフレーズの中である。

Kia toru nga herengi. Kua toru inaianei.

3 シリングにして。それしかないから。

E hia nga paaparakaauata o teenei taane?

E rima.

この町には幾つホテルがあるの？ 5 つです。

5. 数詞 (Numerals)

動詞 e は数字10を意味する。tekau と共には用いられない。通常、最初の意味で te tahi, であり、te ru は二番目の意味で、定冠詞をつけて用いられる。代わりに普通の prefix tuan は数字の1から9まで用いられる。普通の接頭辞は tekau は用いられないし、10以上の数は用いられない。仮に、序数の数が沢山フレーズの中に中心としてあれば tua の形は用いられる。te ope tuatahi は最初の大隊の意味で hia は tua と共に用いられる。ちなみに tua は幾つ？の意味である。

(A) 数の予測

動詞の e はいくつそこにあるかを問う時に使用される。

Nga waka e whitu. Nga hau e whaa.

7 隻のカヌー。4 倍の風。

E waru nga ruuma o te whare nei.

この家は8部屋ある。

人数を2人から9人まで言う場合、hia? 何人というのを toko の接頭語によって使う。

Tokohia nga tangata? Tokorima.

何人ですか？5人です。

(B) 分配される接頭辞 Taki-

数詞で接頭辞 taki を使うための例を挙げる。

Kia takirua mai nga kararehe.

その動物を 2 匹づつ中にいれよう。

次に10以上の数を挙げる。

kotahi tekau maa tahi	11
kotahi tekau maa rua	12
kotahi tekau maa toru	13
kotahi tekau maa whaa	14
kotahi tekau maa rima	15
kotahi tekau maa ono	16
kotahi tekau maa whitu	17
kotahi tekau maa waru	18
kotahi tekau maa iwa	19
e rua tekau	20
e rua tekau maa tahi	21
kotahi rau	100
kotahi mano	1000

6. Taua と teetahi

回顧的なかつ決定的な taua は限定的な意味を成す。従って taua tangata は限定的な男、あるいは単にあの男の意味を成す。又、最初の t をとり、aua tangata はあの限られた男たちの意味で、複数形をとる。

teetahi は限定的に明記する意味で、その決まった複数形は teetahi 確かなの意味である。in teeraa teetahi rangatira. はあるチーフがいた意味となる。不定冠詞 he は ki, i, hei, kei に前置詞を用いない。このばあい、he は teetahi に取って代わる。

(A) 方言

teetahi と eetahi は Waikatomanipoto では方言として、teetehi とか eetehi にとって変わる。例を挙げる。

Na, teeraa anoo teetahi paa nui onamata,
ko Maunga-whau.

さて、Maunga Whau という名前のある

大きな森が昔あった。

Ka rongo teetahi wahine no runga i te rangi ki te toa o Taawhaki.

空を飛んであるある女性は Taawhaki の勇敢さについて耳にした。

Na, i eetahi raa ka tupu te whawhai a taua paa ki nga taangata o Aawhitu.

ある時刻に Aawhitu の人と要塞との間で戦争が起きた。

Ka pirau noa iho teetahi taha o te wahine ra, ka tupuria e te tiotio.

その女性の一方の人がフジツボにすっかり染まった。

7. koo, konei, konaa, koraa, reira 位置を示す語

koo は there、konei は here、konaa は there とか near you を意味し、koraa は near speaker や hearer でもない。reira は以前からの知っている場所を意味する。

Koo atu and koo mai はそれぞれの場所や目的物の近くや離れたところを言及する。

Kei koo atu o Wanganui tooku kaainga; kei koo mai te kaainga o tooku teina. わたしの家庭は Wanganui の遠く離れた端にあります。弟はこちらの端にいます。例をいくつか挙げてみる。

No hea koe? No konei tonu.

出身はどちら? ここよ。

Me waiho i konei te mea na.

その物をここに残しておきなさい。

Kei hea taku heru? Kei koraa ra.

私の櫛はどこ？そこよ。

Kei koo atu o Whanganui a Whangaehu.
Whangaehu は Whanganui より遠いところ
です。

I haere a Tama-te-kapua ki Moehau, aa,
ka, mate, ia ki reira.
Tama-te kapua は Moehau に行った。そ
して、そこで亡くなった。

Ka haere a Tainui ki Muri-whenua; ka
hoki mai i reira ka uu ki Taamaki.
Tainui は遠い北に行った。そして彼女は
そこから Auckland に戻ってきた。

Kia ora koutou i runga i nga aahuatanga i
hui mai ai taatou ki konei i teenei raa.
我々が今日ここで会えたことに関して多
幸を祈ります。

8. 受身の一致

受身の句における位置は句の中で最初の同
意により-tia の形をとる。

I kainga otatia nga kumara.
kumara たちは生で食べられた。

I tuaina katoatia nga raakau.
全ての木が切り倒された。

I tanumia oratia a Te Heuheu raatou ko
toona iwi.
Te Heuheu は人々と共に生き埋めにされ
た。

I koorerotia pukutia e ia ki a Pou te
matenga o Tiki.
Tiki の死は Pou にひそかに知らされた。

E kore ia e haere atu kia utua katoatia ra
anoo aa koutou nama.

貴方が借金を払われるまで彼はどこにも
行かない。

受身の句における慣習的不変化詞は受身の
終結-tia をとる。

I patua rawatia te hoariri.
敵は完全に殺された。

I kawea keetia e ia toona ingoa.
彼の名前は彼に変えさせられた。

由来された名詞が核の頭として用いられる
と base に限定し、慣習的不変化詞はフレ
ーズの中で基本的には一致して接尾辞-tanga
をとる。

Ko tana patunga pukutanga i a au.
私をはっとさせる彼のひそかさ。

Tenga tonutanga atu ka tiimata te koorero.
到着後すぐに話が始まった。

I te aonga kautanga o te raa ka haere ia.
夜が明けると彼は出て行った。

9. Derivation 派生語源とその使用

Hoomai, hoatu, hoake これらの基となるも
のは、分離独立した語としてはもはや見られ
ない。ho(o)は根から直接的普遍化により派
生される。直接的な品詞が次の3つの場合基
となる品詞として使われる。

古典的な Maori, Hoomai, Hoatu, Hoaks は
受身的に用いられる。しかし、受身の終結
としてはとらない。最近の Maori において
Hoomaingia と Hoatungai の形が時々聞かれ
る。Hoomai は話者に対して与えることを意

味し、Hoatu は譲ることを意味し、場所によっては、提出する、出す、意味となる。Hoake は話者と関係した場所に出向くことを意味する。Whoatu と whoake は hoatu と hoatu の方言の変形であり、母音の前の wh- で始まる現代的な形として記されている。中でも古典的な maori は使われないものもある。例を挙げる。

Ka mea atu a Hotu-rapa, Hoomai hoki ki a au !

Hotu-rapa は言った、それを私にください！

Ka hoatu te taurekareka hei utu mo te wahine.

奴隷に支払いとして女性が与えられた。

Ka hoatu tana riri !

彼は怒りを発散した。

Hoatu ! Me waiho maaua i konei !

どんどん行け！ 二人をここに残して。

Hoake taatou ki te whare !

家に行かせてください。

Koia nei te whakataukii mo te mea kite, e ka kitea te taonga makere, 'Kaaore e hoatu e ahau, ta te mea ko te paekura kite a Maahina.'

ここに今までにあるものに関連している諺がある。例えば、ある無くなっていたものが見つかった時、私はもう諦めたりしないよ、なぜなら Maahina によって見つけられた宝物だから。

10. hoki の使い方、位置づけ

hoki は and, also, too, indeed などの意味で、

常に句の中で最後に置かれる。

Ka mutu te pakanga, ka mau hoki te rongo.
戦争が終わり平和が宣言された。

Teena hoki teetahi whakataukii...
他に言うことがある。

Ka whai atu ra hoki te kupu kangai i muri i a raatou.

そして、呪いが彼らに起きた。

Ko koe anoo hoki teetahi i reira.
貴方もまた出席者の一人だった。

Ka noho ia ki raro, ka poouri hoki ia ki a ia e kataina ana e te iwi.

彼は座り、人々に笑われたので自身憤りを感じた。

I te waa i patu ai te taniwha i a Mere, mangu katoa te wai o te awa, poouri kerekere. I mua, he maarama te wai. I mua hoki, paapaku eetahi waahi o te awa. I taua takiwaa he hoohonu katoa.

怪物が Mary を川で殺したそのときは真っ暗闇だった。以前は川は浅かったが、そのときはいたるところが深かった。

11. Maori 句の構造

Maori 句は中心とする核から成り立っている。そして、常に現在形であり、与えられた句の中では present か absent のどちらかである。それぞれの句は動詞句か名詞相当語句である。どの句の核も二つの構造的な位置や場所から成り立っていると考えられる。te raakau roa は高い木の意味で、修飾語の位置は高い意味の roa である。te raakau は句の中で核の

中心のみが満たされる。句の頭の核は単一基礎からと二重基礎から成り立っている。句の修飾語は、simple base, reduplicated base, expanded base などそれぞれ一つ以上含む。ひそかに殺す意味の ka patu puku 頭と修飾語は単一基礎で満たされる。次の例は、句の頭は括弧の中にある。

ko te (mahi) kaamura.

大工

he (whaea) tuuranga whaanau.

分類上の母

ko te (take) utu taake.

税金の問題

ko te (kamupene) mahi papa tiihore

ベニヤなどをはがす会社

he (urutira) taniwha moana nui

海の巨大怪物のひれ

適切な位置におく動詞句の周辺は二つの配置を含むが、その二つあるいはどちらかは特別な句の中で使われるか否かである。最初は if としての意味であるか、誘因を表す ka の場合や、if, when の意味を表す e による場合である。次の配置はいかなる動詞の不変化詞によって満たされる。スピーチではこの位置が二つの母音例えば haere! 以上に含んでいる基の命令法の動詞を除いて、常に満たされている。あるいはその句が in haere ana raatou 彼らはどんどん行った、のようになる。Haere mai ki konei nohoai! も同様である。前に置かれる動詞句は次のような文章の中で起きる。

Ka ora ra pea ahau e ka tuaina ki te moana.

海に叩き落されるなら私は逃げる。

Koia teenei pepeha mo te mea kite, e ka kitea te taonga makere.

それ故、見つけられているものと捨てられてい他物が見つかった時に言っている。

(A) 名詞相当語句の迂言

名詞相当語句の迂言で言えば三つの位置を定める点がある。その点のどれかは空になるかもしれないが最初と二番目の点はどこかの句の中に満たされる。最初の点は前置詞によって満たされ、語彙の意味を付け加えると文の中で全体としてフレーズの機能を示す。二つの点は定冠詞 a 不定冠詞 he である。三つ目は原級の nei か、na で満たされる。しかし、違った方法を示している名詞相当語句の例を挙げてみる。

Ki te tangata

その人に

ko Pita

ピーター

o ta raatou taurekareka

彼らの奴隷の

me taua nei rangatira

しかも、言われたばかりの要因

動詞及びその他の句は一つとして考えられる。五つの位置づけがあり、特別な句にされる三つ以上を見出すのはまれである。無理やり満たされる位置づけはない。多くの句は少なくとも迂言はない。例を挙げる。

na te tangata noa atu

誰か知らない人のもの

mo te whenua anoo

土地それ自体に関して

kia riro ai hoki

それは又一致してとられた

kia oti noa ake ra

完全に終わった

参考文献

Bruce Biggs Let' learn Maori A guide to the Study of

the Maori Language 1969 Auckland Univ.

Bento, R. The history and development of the Maori
Language 1991 Wellington Government Printer

Williams, H.W.A. Dictionary of the Maori Language
1971 Wellington

Ngata, H.W. English Maori Dictionary 1993 Auckland
and Reed Books

Yosinari Sawada. An Introduction to New Zealand
English オセアニア出版